慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	研究員紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	Newsletter Vol.7, (2009. 3) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000007-0008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究員紹介

串田裕彦

11 月より論理情報班の非常勤研究員となりました。私はこれまで、様相を伴った論理推論を理論的に研究してきました。具体的には、ハイブリッド論理、線形論理、証明の論理などの様相推論体系の中で、様相記号がいかなる論理的振舞いを示すかを理論的に明らかにしてきました。可能世界、資源、証明といった概念を直接表現する様相記号がいかなる場合に構成的な振舞いまたは非構成的な振舞いをとるかといった問題に意味論的また証明論的に取り組んできました。また、哲学者プラトンが彼の自然哲学形成において、論理的推論の果たした役割に関しても具体的に指摘してきました。今回の研究では、線形論理のある一般化された様相概念の基本的性質について意味論的に明らかにしようとしています。どうぞよろしくお願いします。

秋葉剛史

2008 年 11 月から人文グローバル COE 非常勤研究員となりました秋葉と申します。学籍上の所属としては、哲学・倫理学専攻で後期博士課程に在籍しています。私の研究は、大まかに言って二つの側面を持っています。一つは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてドイツ語圏で活躍した哲学者たち（具体的にはブレンターノ、フッサールなど初期現象学の伝統に数えられる人たち）の思想のうち、特に一般的存在論に関わる部分に焦点を当て、彼らが取り組んだ「意識体験の構造分析」などの具体的な課題において、その一般的考察がどのように活かされているかを明らかにしようというものです。またもう一つの側面は、これと関連はするのですが、近年英米圏の哲学で盛り上がりを見せている分析形而上学と呼ばれる伝統のうちで、フッサールらの着想がいかに受け継がれているかを考察すると共に、それらをもとにした新たな理論的選択肢の可能性を探ろうとするものです。

石田京子

2008 年 12 月より、グローバル COE 非常勤研究員として着任いたしました、石田京子と申します。現在はすべての人間のもつ普遍的な義務と権利の根拠づけの解明を目的に、18 世紀ドイツの哲学者イマヌエル・カントの法理論の研究をおこなっております。近年、『永遠平和論』（1795）の新訳が相次いで出版されたことからも明らかなように、グローバル化の時代において、世界市民主義を標榜するカントの法哲学は、カント研究内部からのみならず、日本の社会においても広く注目を集めている分野であるといえます。また、カントの理論は、ロールズやハーバーマス、ヌスバウムをはじめ、多くの現代の政治哲学者達に対して、多かれ少なかれ影響を与えています。そのことは、カントの哲学が、誰もが受け入れることができる社会や政治体制のありようを考える際の装置として、今なお魅力的な枠組みであることを示していると思われます。

佐々木尚

みなさまこんにちは。私は 2008 年 11 月より慶應義塾大学人文グローバル COE の非常勤研究員となりました佐々木尚と申します。

私の研究領域は作動記憶 (working memory) という認知システムです。この作動記憶は短期的な情報の保持と比較的高次な認知課題の遂行に関わるとされております。この研究領域には様々なものがありますが、私が今まで特に取り組んできたのは、長期記憶の処理における作動記憶の役割と、学習過程における作動記憶の役割の変化です。また、本グローバル COE ではこの作動記憶研究を高次認知の研究に発展させて、論理的思考における作動記憶の役割や、流動性・結晶性知能と作動記憶との関係について検討していきたいと思います。また、文章理解や学習方略の選択に対する作動記憶の役割なども検討していきたいです。

それではよろしくお願いいたします。

編集後記　皆様のご協力により，年度内に本ニューズレターを発行することができました。年度末のお忙しい中，原稿を執筆頂いた方々には，なにより深く感謝をいたしております。

本人文グローバル COE も採択後，早くも２年目に入ろうとしております。年度末に行われました３施設シンポジウムや若手成果報告会における発表の様子から，各施設，各研究班において，成果を出していくための研究，環境基盤がしっかりと整い，成果の蓄積や更なる研究の進展の段階に入りつつあることを感じております。まもなく次年度を迎え，また新しいメンバーが本プロジェクトに加わっていく事と思います。それらの新しい力を加え，中間評価に向け，更に研究にはずみがついていけばと思っております。　（菅佐原 洋）

慶應義塾大学　論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2009. March. No. 7

発行日　2009 年 3 月 30 日
代表者　渡辺 茂
〒 108-0073　東京都港区三田 3-1-7　三田東宝ビル 7F・8F
TEL：03-5427-1156
FAX：03-5427-1209
keiocarls@info.keio.ac.jp
http://www.carls.keio.ac.jp/